

公益信託 エスペック地球環境研究・技術基金
平成20年度 助成金研究報告書

平成 21年 9月 30日

公益信託 エスペック地球環境研究・技術基金
受託者 みずほ信託銀行株式会社 御中

研究テーマ: 講演会「地域の森づくりは地球環境を守る」の開催および2000本記念植樹

申請者氏名: 小野田 耕造

団体名: 福岡グリーンヘルパーの会

会 長 平 野 照 実 

住 所: 福岡県前原市大字新田919-1
電 話: 092-322-3140

ホームページへの掲載: 可 不可

本研究の成果について、別紙のとおり、会計報告および活動内容、記録写真、チラシ等の資料をご報告いたします。

公益信託 エスペック地球環境研究・技術基金
平成20年度 助成金使途報告書

公益信託 エスペック地球環境研究・技術基金
受託者 みずほ信託銀行株式会社 御中

平成 21年 9月 30日

公益信託 エスペック地球環境研究・技術基金「平成20年度助成金」の使途について、下記のとおりご報告します。

研究テーマ：講演会「地域の森づくりは地球環境を守る」の開催および2000本記念植林

申請者住所：福岡県前原市大字新田919-1
電話：092-322-3140

団体名：福岡グリーンヘルパーの会

会長 平野 照 実



記

(1) 事業に要した総費用および資金調達方法

総費用額 ①+②+③+④	①本件助成金	②地方公共団からの補助金	③その他助成金等	④自己資金
1,051,434円	400,000円	0円	(財)イオン環境財団 公募助成金 582,808円 九州電力(株) 40,000円 NPO緑のまちづくり 交流協会30,000円	一般会計 5,626円
合計	400,000円	0円	652,808円	5,626円

(3) 事業テーマの概要

○研究テーマ: 講演会「地域の森づくりは地球環境を守る」の開催および2000本記念植林

事業の目的は、私たち「福岡グリーンヘルパーの会」の発足10周年記念行事として、市民の方に参加いただき、地域の森づくりのあり方を語り合うフォーラムと植樹祭を開催しました。森づくりを専門とする先生方の講和を聞き、パネリストと参加の皆様により自由活発な議論をいただき、地域の森づくりの輪を広げるキッカケとするものです。

また、植樹祭でキャンパスの保全緑地に植林に使用する苗木2,000本は、自前で元岡地区の森の遺伝子を受け継いだ種子を育苗した苗です。今後は地域の皆さんと協働による継続的な森づくり活動のシンボルゾーン的な森にしていきたい考えです。

○開催年月日 …… 平成21年 5月17日 午前9時から午後3時

○開催場所 …… 福岡市西区元岡744番地 九州大学伊都キャンパス

○フォーラム(第一部) …… 午前10時～正午 (受付午前9時30分)

- 講話・コーディネーター
九州大学大学院理学研究院教授 矢原 徹一
- パネリスト
九州大学大学院農学部研究院准教授 薛 孝夫
地元 元岡公民館 館長 中村 勝利
地域代表 トマト栽培農家 浜地 正彦
福岡グリーンヘルパーの会 会長 平野 照実
司会: 園村 千栄子(熊本グリーンヘルパーの会)

○参加者数 …… 194名

フォーラムには市民の方、九州大学関係者、福岡近郊の森林保全団体、九州各県のグリーンヘルパーの会、九州電力、NTT西日本、JA福岡市などから194名が参加されました。当日は早朝からの雨にもかかわらず、環境、森づくりに興味を持った皆さんが工学府第3講義室に詰めかけられ、満席の会場は熱気に満ちていました。

○フォーラム内容と進行

- 8:00 会員集合 二つの催しのスケジュールと各役割分担の説明
- 8:20 持出し備品、用具の積み込み後、フォーラムと植樹会場別れ、各準備開始
- 8:35 フォーラム会場の設営などの準備と構内主要の箇所に案内表示板の設置。植樹会場の本部席のテント張り、駐車場等にガードマン5名の配置で安全誘導などの開催体制を整える。(この頃から風雨が強まり最悪の状態に)
- 9:00 参加者の車を駐車場へ誘導し、駐車場からフォーラム会場までの案内誘導に人員を配置して、フォーラム参加者の受入れ体制を開始
- 9:30 フォーラム出演のコーディネーターとパネリスト、司会とで進行打合せ会
- 10:00 フォーラム開始(司会からパネリスト紹介と平野会長が主催者挨拶)
フォーラムは矢原教授の講演で開始されました。地球全体の森林について、人口増と森林面積、温暖化、種の絶滅と野生動植物の絶滅危機の状況の話から始まり、伊都キャンパスの生物多様性保全ゾーンの保全は、面積、種を減らさないことが目的ある事と、地域の森づくりの意義は、森を増や

すことで温暖化を阻止し、野生生物を守る、人と森のかかわりを取り戻すことである事などと話が進みました。森のことを知らない大人が多くなっている、子ども達に森づくりに係わることは自然再生の近道と「子ども達の心に木を植える」ことを提唱されました。

10:40 パネルディスカッション

子どもの頃から桑原、元岡の森をよく知っておられる中村館長は、子どもの頃の森の佇まい、森で遊んだ事などを話されました。トマト栽培農家の浜地さんは、ミカン園が農産物自由化で不調となり放置された畑は竹林化してしまった事を話され、「山を守ることは、水を守り、農業を守る事になる」と、これまで保全活動に携わってきた私たちへの暖かい応援メッセージをいただきました。

辞准教授は、大学の造成計画と保全地の森づくり方法、里山の森へ向けた考えを話され、皆さんは話を聴きながら、うなずき、時に先生の話に笑顔もこぼれ、和やかな講演会風景でした。また、福岡グリーンヘルパーの会の平野会長は、種子からの育苗、植樹、竹伐採での森の回復、どんぐり森イベントなどの活動内容を紹介いたしました。

11:30 休憩(10分)

ディスカッションへの質問票の提出は54件に達する

11:40 後半は、質問票の質問、意見、提案内容などにパネリストの皆さんが回答する形で再開されました。質問や意見は、九大と地域の森づくりに関するもの7件、ランドアップによる防除のことなどを含む竹に関するものが15件、里山保全、森づくり森林について12件、イノシシ、アナグマなどの動物に関するもの5件の他、トマト農家の浜地さんの質問など、多数寄せられました。時間の都合上、回答が割愛された質問もありましたが、参加者に里山の森づくりについて、共感いただく好い機会になったことが事後のアンケートからも窺い知れ、地域の森づくりが身近な動植物の生態系につながる事などを認識していただくフォーラムになったと思います。

矢原先生のまとめに「便利な生活にの現代に必要な事は、自分が何にかに関わり・体験すること、楽しく活動することが結果として、それが里山の保全につながっていく、10年続いている当会の活動が今後も楽しく続き、輪が広がっていく事」を願うと、フォーラムを締め括られました。

12:15 閉会 (昼食)

○植樹祭(第二部) …………… 午後1時～午後3時 (受付午後1時)

フォーラムが開催されている午前中は風雨が強く、植樹広場では、風に煽られ本部席のテントや横断幕の支柱を補強するなどの応急措置を施しながら、雨が止むのを願っていました。この間にも植樹祭の開催確認の問合せで携帯電話は鳴り放しで、「少雨でも決行します。雨具を準備してご参加ください」と参加を呼びかけました。午前11時を過ぎるあたりから雨も小降りになり、西の空に明るさが増して、植樹活動は実施できる天候へ回復し始めました。

キャンパス内で食事と休息を終え、フォーラムと植樹祭の両方に参加される175名と、午後からの植樹作業に参加される69名が受付を済ませ、超電子顕微鏡棟横の広場に集まってきました。(雨天で参加希望されていたご家族からのキャンセルも多かった)

- 13:00 植樹祭参加の受付開始
- 13:15 オリエンテーション
内山代表幹事の挨拶、植え方の説明と安全作業のお願い、ストレッチ体操後、緑、黄、赤班の3班に分かれて植樹場所の法面へ参加者を誘導する。
- 13:35 植樹作業開始
雨で斜面で滑りやすい状態になっており、安全に気を遣いましたが、一方では、今年は少雨傾向で乾燥していた地面が適度に潤い、植樹には適度の土壌になっていました。(別紙の記録写真を参照)
- [記録]
今回の記念植樹では、植栽面積2,400㎡に2,000本、1.2/㎡の密度の植栽しました。樹種の内訳はアラカシ、タブノキ、ヤマモモなど常緑広葉樹9種の1,570本、ヤマザクラ、ムクノキ、クヌギなど落葉広葉樹が7種430本で、常緑、落葉の比率は、常緑樹が78.5%、落葉樹21.5%となりました。
自前で育苗した苗で、樹高や枝張りは不揃いですが、元岡の地に着実に根を下ろしてくれていると思っています。平成15年、最初の植樹祭で植えた苗木は、樹高も4、5mを超えるまで生育しています。これまでの合計植樹本数は6,862本で、今回の植樹で桑原側の森と生物多様性保全ゾーンとが将来は一体化し、常緑樹の中にコナラ、クヌギ、ヤマザクラなど落葉樹が点在する森が形成され、保全活動のシンボルゾーンの森になっていくものと想像しています。(植栽区分別苗木本数・人員数一覧表を参照)
- 14:20 植樹作業終了
2,000本規模の植樹は初めて経験でしたが、大人の参加者が多かったためか、作業に要した時間が約45分と意外に早く、「人手の数に勝るものはなし」を実感しました。各班別に作業を終えた法面で記念撮影を行って、植樹活動は終了しました。
- 14:25 参加者と交流会
参加者へアンケート記入依頼と飲料水の配布をし、毎年、どんぐり森イベントに参加している子や、初めて企業ぐるみで来られた方、ガールスカウトで団体参加の方に「森づくりについて感想」を述べていただきました。最後に薛先生から植樹活動の労いと、今後、協働での育林活動をPRいただき、閉会しました。
- 14:40 閉会
退所する参加者の歩行の安全と駐車場から安全な車の誘導(ガードマン)
- 15:00 北九州GH、古賀緑のまちづくりの会、岡垣町緑の会を乗せた貸切バスを会員で見送って、会場のテント、横断幕の収納、備品の後片付けと借用用具の清掃整備を行なう。(会場撤収と資材置場へ用具の運搬)
- 16:30 参加者を植樹地の法面へ誘導する通路のため、ガードレール3か所の鉄柱取外した箇所の復元は時間を要したが、大学施設は使用前と同様に修復。
- 17:10 会員解散(怪我人、事故も無く、無事に終えたことに感謝)

〇おわりに

フォーラムと2,000本規模の植樹祭の開催は初めての取り組み、200名の人たちが一堂に会している最中に地震や火災など災害が発生した時の避難誘導はどうしよう。植樹地は斜面で生憎にも雨上がり、滑って骨折などの事故が起きたらどうしようと、心配

場面があったり、「あっ、ムカデ・・・」、「あっ、滑っちゃった」くらいの声が聞こえたりしましたが、土いじりや植樹を喜ぶ歓声が響くなか、事故も無く二つの催しを終えた事にホッとしています。この記念事業に本件助成金や他団体からの助成金、協賛での協力支援を得て、多数の参加者共に森林保全で共感する機会ができた事に謝意を表します。

ただ、目的の1つにあげていました生物多様性保全ゾーン内の観察と自然体験学習の実施企画がもれていた事を開催直前に気づきました。1日でフォーラムと植樹祭のジョイント開催する企画案を進めていくうちに、二つの催しに趣きをおく形になって、森の散策を通しての体験学習などの観察会を盛り込んでいませんでした。

対応として、どの時点で行うか、多分、フォーラムは時間を延長する可能性が高いので、昼食後は可能性は低くなる、植栽活動が終わった後にこれまで植樹してきた場所へ遠回りして、本部会場に戻るコースを考えてみましたが、班別の行動で決まった時間帯に戻れない人たちも出てくるので、参加者との交流会もできない、閉会の辞が流れ解散になってしまう、など等と考えを巡らすうちに策が閃きました。

植栽活動を終えて、参加者との交流会の中で、「ヤギがいるところへ行ってみないか、案内チラシの挿絵と同じ風景を観る所へ行ってみたい方・・・」と森の散策を提案するしかない、その場合、閉会後に希望者を募る形になり参加も少数になっても行おう、何時でも森を案内できる会員はいるので試みてみよう、思っていました。

が、雨天で、いつものイベントの時より子ども達が少ない、参加者も早く帰りたいモード、FGH会員も3日連続の活動、朝も早くから準備で来ている、記念の催しも無事に終えそう、後は会場の片付けで終われそうという顔が垣間見え、散策の提案が言い出せなかったことを悔やまれ、反省しています。

このリベンジは、来る11月15日(日)第10回秋の「どんぐりの森をつくろう」の自然体験学習と、どんぐり拾いのイベントを開催予定します。この際、今回参加のご家族、ガールスカウト指導者や特にキャンパス近くにお住まいの元岡地区育英会のご家族に参加を呼びかけて、記念事業で果たせなかった学習会に多数の参加いただいて、再生過程のキャンパスの森を観ていただく機会にしたいを思っています。

今回の記念事業で、地元公民館長、JA福岡市(元岡支所)、トマト栽培農家とも縁が出来ました。また元岡地区にある浜地酒造の経営者から、当会と連携した森林保全活動を展開していきたいと持ちかけられています。当会の役割でどのように形で地域と連携を図っていくかを今月10日の幹事会に計ることになっている事をご報告をします。

○記念事業開催に向けた主な取組

- 平成20年11月3日 …… 平成20年度 秋季幹事会に記念事業の開催日の変更を提案し、5月17日(日)開催で幹事全員の了承を得る。
提案理由は、平成21年2月22日(日)に植樹祭を開催予定で、年度末3月中に記念事業の準備ができない事から変更提案。本件助成申請時は平成21年3月に実施で助成を得ているため、みずほ信託銀行大阪支店に開催期日の変更した場合の報告期限等を問合せ、了承を得る
- 平成21年1月10日 …… リーダー会議を開催 記念事業の企画案を提案承認
フォーラム会場、植樹場所の下見で開催予定場所と記念植樹祭のプレ版の2月22日開催の第7回植樹場所を観察し、2月1日および前日の21日地拵え整備等の検討を行う。いずれも法面の傾斜地で安全な作業が出来る整備が必要なことを確認する

- 平成21年 2月10日 …… リーダー会議 フォーラム、植樹祭の役割分担を各幹事に割り振り、3月末までにチラシ等の作成に向けて九州大学側との会場に施設の利用承認や大学ないの周知活動等協議打ち合わせ。福岡市はじめキャンパス周辺各教育委員会のご後援依頼や、協賛、協力先との支援依頼を誰が行うかなどの役割分担を2月末調整する議決。
- 平成21年 2月22日 …… 第7回「どんぐりの森をつくろう」植樹祭を雨天ながら開催し、地元元岡地区の方たちなど170名が参加、820本を生物多様性保全ゾーンに植樹。今年5月17日の記念植樹祭の予定地と隣接した場所に植栽。将来は今回植栽した場所と一体化した森に形成される。これまでより参加人員、植える本数で規模が拡大する植樹祭開催への手ごたえを得ることが出来た。
- 平成21年 2月28日 …… 幹事会開催 3月期の事業開催に向けた取組を議決、合わせてNPO法人格取得に向けた定款等の内容案の検討も同時進行で行う。2月22日の第7回の植樹祭の反省点を踏まえ、5月の記念事業の植樹祭に活かせるように取組策を再検討。この時期、苗木の選別も実施する
- 平成21年 3月10日 …… フォーラム会場および駐車場使用で九大・工学部総務担当と打ち合わせ。3月18日に会場下見を兼ねて、大学構内の管理をされている伊都共通事務所長との面談。後援依頼先へ正式要請書を各委員会等の発送。協力いただく九州電力(株)環境総括グループに支援要請で訪問。3月末にチラシ、ポスターの構成内容を決定し、印刷見積もり等をとり発注先の絞込み、フォーラム出演者との事前打ち合わせと司会役決定などこの期間に行う。
- 平成21年 4月 1日 …… チラシ、ポスター、フォーラム資料用のパンフレットの発注、4月中旬に案内チラシ郵送とポスター掲出。竹支柱依頼先に植樹地の整備も依頼し、5月17日直前に整備完了。フォーラムと植樹祭担当別に事前準備を進める。
- 平成21年 4月末 …… 記念植樹祭のプレ版として、今年2月22日に行った第7回植樹祭に、125名(子ども達74名)の地元の元岡地区育英会のご父兄と子供たちが参加してくれていましたが、記念植樹祭の当日は、生憎にも球技大会と重なり、期待していた地元の子ども達の参加が出来なくなったことと情報を得て、改めて、周知活動の仕切りなおしをする。
- 平成21年 5月15日 …… 植樹祭会場の区割り、竹杭、肥料、結束紐等の植栽準備、スコップ、木槌などの用具の点検
- 平成21年 5月16日 …… フォーラム会場の設営と資料袋詰めその他、植樹会場へ苗木の搬入と班別の樹種本数を仕分け、プラカード、リボン等作成とマイク機器のチェックなど翌日の開催に備える
- 平成21年 5月17日 …… 「フォーラム&植樹祭」開催当日

※活動の詳細につきましては、当会の会報「News Letter」平成20年12月末発行2号平成21年4月発行の3号、21年8月末発行の1号を参照ください。